

学校評価（教職員による自己評価と保護者の評価の集計） 令和3年度米沢養護学校長井校

評価基準 4 良い 3 ほぼ良い 2 やや改善 1 要改善 で教職員（19名）保護者（22名）で評価しました。
結果は、評価基準を得点化して平均値で表しています。最高値は4点です。

結果は、評価基準を得点化して平均値で表しています。最高値は4点です。		教職員と保護者の評価結果に対して考察 ○結果に対しての対応		対応策の実施部署 および活動内容								
①	教職員： 児童生徒を真ん中に置き、児童生徒の人格と主体性を尊重した教育を推進していると思いますか。 保護者： 長井校は、子どもを真ん中に置いた教育を推進していると思いますか。 <table><tr><th>評価者</th><th>昨年度</th><th>今年度</th></tr><tr><td>教職員</td><td>2.9</td><td>3.4</td></tr><tr><td>保護者</td><td>3.9</td><td>3.8</td></tr></table>	評価者	昨年度	今年度	教職員	2.9	3.4	保護者	3.9	3.8	考察) 今年度は、コロナ禍のため、昨年度よりも児童生徒の実態を把握し、個別や学級で、個に応じた学習を丁寧に行ってきた。その結果、教職員の評価が昨年よりも上昇しているし、保護者からも高く評価してもらっていると考える。 ○継続して、自立活動を基本とした実態把握を行い、本人が得意とすることを効果的に手立てに活かし、日々の指導を行っていく。	教務部と研究担当による、学校研究に準じた丁寧な実態把握と、それに基づく授業づくりを整理し実践する。
評価者	昨年度	今年度										
教職員	2.9	3.4										
保護者	3.9	3.8										
②	教職員： 一人一人の実態把握を確実にし、個別的教育支援計画・指導計画を充実させ、PDCAサイクルを積極的に回して更なる指導・支援の改善に取り組んでいると思いますか。 保護者： 一年間の支援方針をもとに、一人一人に応じた支援が行われていると思いますか。 <table><tr><th>評価者</th><th>昨年度</th><th>今年度</th></tr><tr><td>教職員</td><td>3.2</td><td>2.9</td></tr><tr><td>保護者</td><td>3.8</td><td>3.9</td></tr></table>	評価者	昨年度	今年度	教職員	3.2	2.9	保護者	3.8	3.9	考察) 実態把握の仕方を研究で取り組んだことで、目標や手だてを設定するまでの流れも整理されてきた。結果、これまでの個別の指導計画、日々の授業記録、単元ごとのまとめを関連付けたPDCAのサイクルが不十分であることが分かったと考える。 ○教務部を中心に、次年度に向けて学習指導計画、日々の授業記録簿、個別の指導計画の整理を現在行っている。結果として、これまで以上に一人一人に応じた学習が行われることが期待できる。	教務部を中心とした個別の指導計画の改訂作業を年度内に行い次年度に繋げていく。
評価者	昨年度	今年度										
教職員	3.2	2.9										
保護者	3.8	3.9										
③	教職員： 教職員がそれぞれの専門性を生かし、児童生徒に必要な資質・能力を協働して育成していると思いますか。 保護者： 学級担任を中心として、組織的に学級経営がなされていると思いますか。 <table><tr><th>評価者</th><th>昨年度</th><th>今年度</th></tr><tr><td>教職員</td><td>3.4</td><td>3.3</td></tr><tr><td>保護者</td><td>3.7</td><td>3.8</td></tr></table>	評価者	昨年度	今年度	教職員	3.4	3.3	保護者	3.7	3.8	考察) 昨年度に引き続き、学級単位および1、2年、3、4年、5、6年などブロック単位の小集団での学習を行ってきた。結果、学部全体での教員間による教材研究や児童生徒の実態把握など協働的な側面が希薄になってしまった。 ○各学部で、情報交換や教材準備など時間を設定して取り組むように改善されてきている。	学部主任を中心に、計画的に学部内での話し合いの場を設定。学部内における教員同士が協働して取り組む意識を高めていくようにしていく。
評価者	昨年度	今年度										
教職員	3.4	3.3										
保護者	3.7	3.8										
④	教職員： 学びの連続性を意識した教育課程を編成し、主体的・対話的・深い学びの視点から授業改善を行っていると思いますか。 <table><tr><th>評価者</th><th>昨年度</th><th>今年度</th></tr><tr><td>教職員</td><td>3.2</td><td>2.9</td></tr></table>	評価者	昨年度	今年度	教職員	3.2	2.9	考察) 主体的対話的深い学びのある授業については、それぞれの意味合いや、具体的にどのような場面を設定していいのか今だ不明な点があるということが分かった。 ○今後の学校研究とも関連付け、主体的対話的深い学びのある授業について授業づくりとともに検討していく。	学部および研究担当により、今後の学校研究と関連づけ、学習会による教員の学習の場の設定と、授業実践を通した周知を推進する。			
評価者	昨年度	今年度										
教職員	3.2	2.9										
⑤	教職員： 社会に開かれた教育課程を追求し、児童生徒や保護者、地域、関係機関から信頼される学校づくりをしていると思いますか。 保護者： 児童生徒や保護者、地域、関係機関から信頼される学校づくりをしていると思いますか。 <table><tr><th>評価者</th><th>昨年度</th><th>今年度</th></tr><tr><td>教職員</td><td>3.3</td><td>3.6</td></tr><tr><td>保護者</td><td>3.8</td><td>3.6</td></tr></table>	評価者	昨年度	今年度	教職員	3.3	3.6	保護者	3.8	3.6	考察) 外部からの教育相談の依頼や授業研究会、現職教育研修会の情報提供、放課後等デイサービスや福祉機関等への学校だよりの配布や情報交換など、地域の学校としてセンター的役割を全教員で担うことができた。 ○校内での研修を行い、一人一人の教員の専門性を高めることで、今後も継続した外部とのつながりを行っていく。	学部および特別支援教育コーディネータ、相談担当を中心に、校内研修会を継続して実施する。
評価者	昨年度	今年度										
教職員	3.3	3.6										
保護者	3.8	3.6										

⑥	教職員： 自立と社会参加に向けたキャリア教育と進路指導を推進していると思いますか。 ■ 昨年度 ■ 今年度 教職員 昨年度, 3.1 今年度, 3.1	保護者： 将来の社会参加と自立に向けて、お子さんに合った支援がなされていると思いますか。 ■ 昨年度 ■ 今年度 保護者 昨年度, 3.6 今年度, 3.6	考察) 進路担当者を今年度より2名体制にすることで、卒後を意識した進路指導として、進路指導の計画を立案、定期的な進路指導だよりの発行、それ以外にも、長井校版キャリア教育系統表を意識した、日常の学習への学習内容の般化を行った。 ○継続して実施。特に、保護者への進路に関する情報の提供は「進路だよりの」が主となるので、内容や時期を一層吟味して行っていく。	教務部と進路担当によるキャリア教育の実践と進路指導（進路だよりの計画的な指導実践）を充実させる。
⑦	教職員： ICTの活用促進と心とからだの教育、情報教育は適切に進められていると思いますか。 ■ 昨年度 ■ 今年度 教職員 昨年度, 2.9 今年度, 3.2		考察) この1年で、校内のICT関連機材はかなり充実されたが、それらを十分に学習に活かすには至っていない。 ○ICT機器の使用に関しては、学習ツール以外にもコミュニケーションツールとしての使用など、児童生徒が学習の場面で対話的に使用できるなど、他校の実践収集や校内での授業実践が必要である。	ICT担当を中心とした学習会の実施や学部による授業実践を推奨する。(ICT機器を用いた授業実践の集約と他校の実践情報の提示)
⑧	教職員： 豊田小等との連携と交流及び共同学習は充実していると思いますか。 ■ 昨年度 ■ 今年度 教職員 昨年度, 2.6 今年度, 3.0	保護者： 豊田小等との連携、交流及び共同学習（居住地校交流）が充実するよう取り組んでいると思いますか。 ■ 昨年度 ■ 今年度 保護者 昨年度, 2.9 今年度, 3.4	考察) コロナ禍のため、豊田小学校はじめ他校の児童生徒との直接交流はほとんどできなかった。代りに、手紙や絵などの間接交流を中心に行ったが、回数や実施時期など、今後に向けて改善が必要である。 ○今後も、直接の交流は難しいが、できる範囲で豊田小との交流や居住地校交流については、手紙やビデオター、Zoomを使用した間接的な交流をより一層推進していく。	交流担当を中心として、直接交流にこだわらず、今年度のような、さまざまな形で交流活動を推奨する。
⑨	教職員： 西置賜地域における特別支援教育のセンター的機能が充実していると思いますか。 ■ 昨年度 ■ 今年度 教職員 昨年度, 3.6 今年度, 3.5		考察) 昨年度に引き続き、コロナ禍ではあったが、地域の巡回支援、学校見学や就学相談は、担当者がそれぞれ役割をはたすことで、効率よく行うことができた。 ○コーディネーターを中心にチームでの対応、可能な限り校内での研修の実施、個々の相談担当教員のスキル向上を目指す。特に、校外の研修への参加は推奨し、研修後の資料の回覧や伝達講習も徹底していく。	特別支援教育コーディネーターや相談担当を中心に継続して実施する。
⑩	教職員： 分かる授業、できる授業に取り組んできましたか。 ■ 昨年度 ■ 今年度 教職員 昨年度, 3.1 今年度, 3.3	保護者： 分かる授業、できる授業に取り組んできましたが、いかがでしたか。 ■ 昨年度 ■ 今年度 保護者 昨年度, 3.8 今年度, 3.7	考察) 昨年度に引き続き、評価の視点が教員間で統一されていない場面が多いため、分かったか、できたかの捉えがまちまちであった。学習の目標と評価の観点を常に設定し授業に望むことを心掛けているが不十分な点も多い。 ○継続して、個別の学習や小集団での学習を実施する際、学習目標や方法について、学部主任をリーダーとして、学部単位で組織として検討共有し対応する。	教務主任および学部主任による日々の授業の評価の仕方を整理する。
⑪	教職員： 発達段階や年齢に応じた支援を心がけてきましたか。 ■ 昨年度 ■ 今年度 教職員 昨年度, 3.2 今年度, 3.5	保護者： 発達段階や年齢に応じた支援を心がけてきましたが、いかがでしたか。 ■ 昨年度 ■ 今年度 保護者 昨年度, 3.8 今年度, 3.8	考察) 昨年度の結果を踏まえ、全教職員が、児童生徒との距離や接触の仕方、呼び掛け方について、常に意識して取り組んでいることが定着してきた。 ○同性による日常生活面での支援は学校教員の実情として難しい点があるが、今後も引き続き、可能な限り同性支援を心掛けるために、学部を超え教員間で協働することを徹底していく。	学部主任および生徒指導主事による児童生徒へのかかわり方を提示する。

⑫	教職員： 児童生徒のサインや意思表示を大切にしてお関わってききましたか。	保護者： 児童生徒のサインや意思表示を大切にしてお関わってききましたが、いかがでしたか。	考察) 学部内で児童生徒について話し合う時間、全体へ提示する時間を週一回設けた結果、これまで以上に一人一人の児童生徒の情報や発信に対する対応を全員が周知できるようになった。	学部主任による学部内の児童生徒の話し合いと全体への提示を徹底する。
⑬	教職員： 「えがお(個別の指導計画)」は分かりやすい内容を目指しましたか。	保護者： 「えがお(個別の指導計画)」は分かりやすい内容でしたか。	考察) 今年度より前期後期の年2回の評価にしている。保護者からは高く評価されているが、全員が分かりやすく丁寧なまどめるように心掛けてはいる一方、全てを網羅しているわけではないので、不十分さを感じている。	教務部および学部主任による個別の指導計画の計画、内容、評価の記述を整理する。
⑭	教職員： 医療や福祉関係機関との連携を十分に図ってききましたか。(教職員のみ)		考察) 医療と連携が必要な児童生徒への対応として、通院時に日常の様子や健康診断の結果から学校医への相談、連携を行ってきた。特に学校医との連携では、事前に打ち合わせをすることで、通院に結びつくことができた。	保安部や学部による対応を徹底していく。
⑮	教職員： 全職員が学部経営・学校経営に積極的に参画してききましたか。(教職員のみ)		考察) コロナ禍のため、全員の意見を取り入れてからの行動よりも、急な教育課程の変更をしなくてはいけない状況があった。全員にはその都度説明をし納得してもらったが、事後報告が多くなったことは反省点である。	全教員に対して、教頭が、日々の会議や話し合い、情報の提供を丁寧に公平に行っていく。
⑯	教職員： 専門性の向上を目指して研究・研修等に取り組んでききましたか。(教職員のみ)		考察) 今年度も校外研修に参加することができず、ほぼ校内Zoomによるものが多かった。特に授業研究会への参加は皆無で、他校の実践に触れることができなかったことで、異なる視点の授業実践力の向上は難しかった。	各学部、学習進路部、研究担当が、それぞれの側面から授業研究会の持ち方や研修会の持ち方を検討する。
⑰		保護者： お子さんは、学校に登校するのを楽しみにしていますか。(保護者のみ)	考察) 昨年度は、全保護者から「4」と評価されたが、今年度は少し下がってしまった。昨年度よりも一層学習活動に制約が出たことで、一人一人の児童生徒が「期待する」ものが十分ではなかったかもしれない。	各担任による、日々の授業の充実を一層図っていく。